

< タイトル >

玄米反収が800キロを超え飼料用米品種として有望な「モミロマン」を育成

< 当該研究成果のポイント >

(独)農研機構 作物研究所と九州沖縄農業研究センターは、玄米収量と全重収量が優れ、飼料用米と稲発酵粗飼料に適する水稻品種「モミロマン」を育成した。本品種は、耐倒伏性が強く、低コスト直播栽培にも適する。

本研究は、農林水産省高度化事業『多収飼料米品種を活用した高品質豚肉生産システムの確立』において得られた成果である。

< 期待される効果・今後の展開など >

食料自給率向上を目標に国産飼料の増産が求められている。また耕作放棄地対策として、水田で生産可能な飼料用米及び稲発酵粗飼料が注目されている。飼料用米及び稲発酵粗飼料の安定生産には、高い収量性と優れた栽培特性を兼ね備えた専用の飼料用品種が利用される。

新品種「モミロマン」は、玄米収量と全重収量が高く、飼料用米と稲発酵粗飼料への利用が期待される。また、耐倒伏性が強く、低コスト直播栽培にも適する。

「モミロマン」は、「日本晴」よりやや早い中生品種であるため、関東以西の地域における利用が期待される品種である。

< 研究所名 >

農研機構 作物研究所  
九州沖縄農業研究センター

< 担当者名 >

作物研究所 低コスト稲育種研究チーム チーム長 根本博

< 連絡先 >

作物研究所 企画管理室  
研究調整役 入来規雄 TEL 029-838-8260

# 飼料米・稲発酵粗飼料向け水稻新品種「モミロマン」を育成

～玄米収量800kg／10aを実現～

## 品種名の由来:

粳（モミ）がたくさんとれる飼料用米が普及しますようにとの願いが込められたロマンあふれる品種の意味。



モミロマンの圃場における草姿

モミロマンの粳と玄米

## 生育特性（作物研究所、平成 15 年から 19 年の多肥栽培での平均値）

品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	粗玄米重 (kg/10a)	黄熟期 乾物全重 (t/10a)	地上部 TDN 収量 (t/10a)
モミロマン	8.15	10.09	89	23.5	227	823	1.80	1.10
タカナリ	8.09	9.28	77	25.1	270	718	1.71	1.00
日本晴	8.17	9.27	90	19.7	419	596	1.76	1.02

## 栽培特性（作物研究所、平成 15 年から 19 年の多肥栽培での平均値）

品種名	耐倒伏性	脱粒性	穂発芽 耐性	いもち病抵抗性		白葉枯病 抵抗性	縞葉枯病 抵抗性
				葉いもち	穂いもち		
モミロマン	極強	難	やや易	不明	不明	弱	罹病性
タカナリ	極強	やや難	極難	弱	弱	中	抵抗性
日本晴	やや強	難	中	中	中	やや強	罹病性

## 品質特性（作物研究所、平成 15 年から 19 年の多肥栽培での平均値）

品種名	玄米	米飯	タンパク質	玄米
	外観品質	食味	含有率(%)	千粒重(g)
モミロマン	下中	下中	7.8	24.1
タカナリ	下上	下上	9.1	21.5
日本晴	中上	中上	9.2	21.8

注)タンパク質含有率は平成 19 年度のみの成績。